

平成26年度

**全国学力・学習状況調査の
結果について**



海老名市立柏ヶ谷中学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「数学に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「生徒質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5
(資料) 指導や学習・生活習慣と学力との関係	P. 6



全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査（平成23年度は震災の関係で実施を中止）でしたが、昨年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第6学年
- ・ 中学校第3学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

国語A・算数A（主として「知識」に関する問題）

国語B・算数B（主として「活用」に関する問題）

【中学校】

国語A・数学A（主として「知識」に関する問題）

国語B・数学B（主として「活用」に関する問題）

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成26年4月22日（火）



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域では、日々の学習で取り組んでいる継続的学習の成果が多くの部分で見られます。今後も継続・発展させていきたい学習活動です。
- 漢字を読むことに関して定着が見られます。
- 敬語の使い方に関しては、比較的定着が図られています。
- 歴史的仮名遣いの読み方は、理解しています。
- 無解答率が低く、全体として粘り強く、設問に取り組んでいます。
- 基礎・基本的な部分は、ほぼ理解・習得しています。

《努力を要する所》

- 「読むこと」に関する領域では「登場人物の心情や行動を注意して読み、内容を理解すること」にやや課題があります。
- 文脈に即して漢字を正しく書く力に課題があります。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 無解答率が低く、問題に粘り強く取り組む姿勢が見られます。
- 「読むこと」の領域では、文章の構成や表現の特徴、説明文などで日々の成果が見られました。これは朝読書の取組の成果が表れていると考えられます。今後も継続していきます。

《努力を要する所》

- 記述式の問題において、根拠を明らかにして論理的な文章を書くことに課題があります。
- 条件に沿って文章にまとめる力、特に「表現の工夫」の技法について課題があります。

今後の具体的な取組

- 漢字を正しく書く力に課題があることから、現在も取り組んでいる「漢字の小テスト」を継続的に実施します。各学年とも既習の漢字も含めて繰り返し練習する環境を整え、日常や文章表記の中で漢字を確実に使用できるよう指導をしていきます。
- 文章を読んで、自分の考えを書いたり、疑問に思ったことを整理して書いたりする学習活動の機会を意識的に増やします。学年に応じて書くときの条件を難しくしていくなど、学年に応じた「読む・書く」力を育てていきます。
- 今後も全校で朝読書に取り組んでいきます。

数学に関する調査結果

数学 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- ・「数と式」の領域における「数学的な技能」に優れています。特に、分数を含む一元一次方程式の求め方をよく理解しています。
- ・「資料の活用」の領域における「数学的な技能」に優れています。特に樹形図などを利用して、確率を求める力に優れています。

《努力を要する所》

- ・「図形」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。特に、 n 角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n-2)$ の理解不足による誤答が半数以上ありました。
- ・「関数」の領域における「数量や図形などについての知識・理解」に努力を要します。特に、与えられた表を基に、「…は…の関数である」という形で表現することの理解不足による誤答が多くありました。

数学 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- ・「数と式」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、与えられた説明の筋道を読み取り、式を適切に変形し、その説明を完成する力に優れています。
- ・「図形」の領域における「数学的な見方や考え方」に優れています。特に、図形の性質を、構想を立てて証明する力に優れています。

《努力を要する所》

- ・「関数」の領域における「数学的な見方や考え方」に努力を要します。特に、与えられたグラフを、事象に即して解釈する力をつけることが必要です。

今後の具体的な取組

- ・「図形」については、用語や記号などの意味を理解するだけでなく、作図の方法や問題を解決する手順などが確実に定着できるようにします。また、基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用を土台に、言語活動等を取り入れ、数学科の内容に即した思考・判断力を養っていきます。
- ・「関数」については、関数の意味や関係を表す表、式、グラフの特徴等を理解させるとともに、文章を読み取り、表現する問題に繰り返し取り組み、定着できるようにします。



生徒質問紙の結果より

学習について

《よかった所》

- 「家で、学校の授業の予習をしていますか」という質問に対して、半分以上の生徒が「している」「どちらかといえばしている」と肯定的な回答をしていて、県平均、全国平均をかなり上回る数値です。
- 「本やインターネットを使って、グループで調べる活動をよく行っていたと思いますか」という質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の肯定的な回答が全国平均を上回り、学校での調べ学習の機会の多さがうかがえます。

《課題と思われる所》

- 授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていると思っている生徒の割合が、県平均と同じ程度ですが、全国平均に比べると、8ポイントほど低い数値です。
- 国語や数学の勉強が大切だと思う生徒の割合が、県平均、全国平均に比べ低く、また、「総合的な学習の時間」に学習したことが、普段の生活や将来に役立つと考えている生徒の割合が低かったです。

生活について

《よかった所》

- 保護者の方の、授業参観や体育祭など、学校行事への参加が全国平均に比べ、かなり高いです。
- 「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対し、肯定的な生徒が多く見られます。

《課題と思われる所》

- 「人の気持ちが分かる人間になりたいですか」、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「人の役に立つ人間になりたいですか」など、人との関わりあいに関する質問項目に、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的な回答をする生徒が全国平均に比べやや低かったです。
- 毎日、同じ時刻に起きる、寝る生徒が全国平均に比べ少なく、特に寝る時間が不規則な生徒が多いです。
- 平日、テレビゲーム等を2時間以上する生徒が県平均、全国平均を上回っています。(2時間以上46.6%、4時間以上11.7%)
- 平日、携帯電話やスマートフォンでの通話やメールを2時間以上する生徒が全国平均に比べ高いです。(2時間以上42.6%)

今後の具体的な取組

- 授業の目標(めあて・ねらい)を今まで以上にはっきりと生徒に伝えられるように各教科で、工夫改善します。また、授業の進行を計画的に行い、最後にまとめ・確認ができるようにするための方法について校内研究で取り組みます。
- 「総合的な学習の時間」の「職業講話」「職場体験」「進路学習」において、学習の意義や各教科との関連性を意識的に考える時間を設けます。
- 道徳・学級の時間や、本校が重点的に取り組んでいる「平和学習」において、お互いの気持ちや考えを知るために、話し合いの機会を増やします。
- 携帯電話・スマートフォンの利用時間、起床・就寝時間の不規則さ等について、保護者会や学級懇談会で取り上げ、学校と家庭が協力して、より望ましいあり方について情報交換をします。

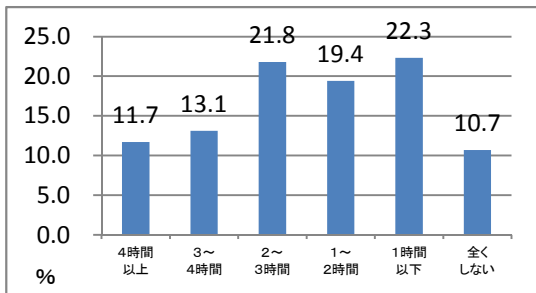
ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 2時間以上テレビゲームをする生徒は46.6%です。

家庭で話し合い、しっかりとルールをきめましょう。

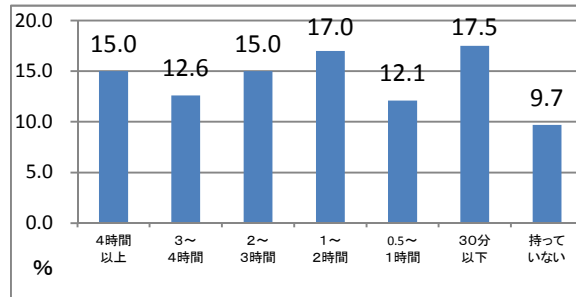
1日あたりのテレビゲームなどをする時間



2 スマートフォンや携帯を9割以上の生徒が持っています。

便利な道具には、マイナス面があることも心得ておきましょう。

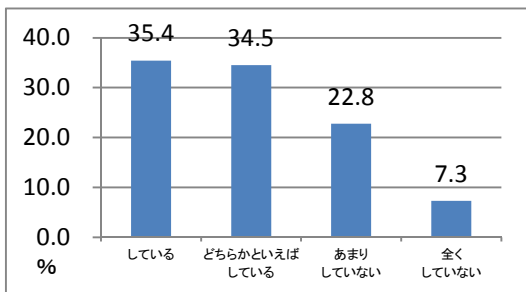
1日あたりのメール・インターネット・通話などをする時間



3 ぜひ、お子様に学校の一日の様子を聞いてみてください。

あまり話さなくなる年頃でもありますが、話す機会を意識して持ちましょう。

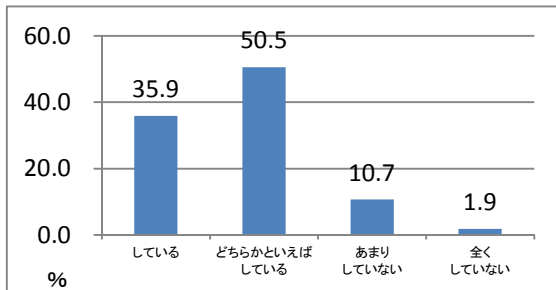
家の人と学校の事を話しますか



4 起床・就寝時間が不規則な生徒がやや多めです。

同じ時間に起床・就寝する生活習慣のサポートをお願いします。

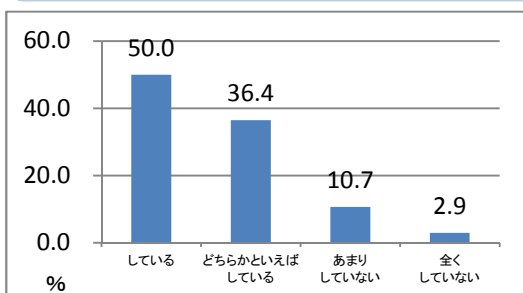
毎日ほぼ同じ時間におきていますか



5 忙しい中でも、計画的に復習と宿題に取り組みましょう。

予習をしている生徒は多くいます。バランスよく学習しましょう。

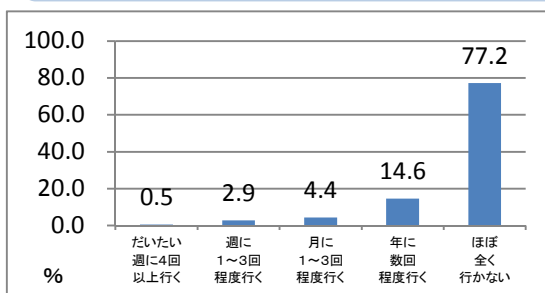
家で、学校の宿題をしていますか



6 学校図書館が整備されています。

今年度から、学校図書支援員が配置されました。積極的に利用しましょう。

図書館や図書室の利用状況



資料

指導や学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ており、今後の指導や家庭・地域への呼びかけに生かして行きたいと考えています。

学校における指導と学力との関係

次のような指導を行った学校ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
さらに、学習意欲や家庭での学習時間等についても高い傾向にある。
(教科に関する調査、学校質問紙調査より)

【指導方法・学習規律】

- ・ 学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞くなど)の維持徹底
- ・ 学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導
- ・ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与える
- ・ 本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身に付くよう指導

【国語科・数学科の指導方法】

- ・ 発展的な学習の指導
- ・ 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業、書く習慣を付ける授業、様々な文章を読む習慣を付ける授業
- ・ 数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業

【言語活動】

- ・ 各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付ける
- ・ 様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導
- ・ 発言や活動の時間を確保した授業
- ・ 学級やグループで話し合う活動
- ・ 資料を使って発表ができるよう指導
- ・ 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導

【総合的な学習の時間】

- ・ 総合的な学習の時間における探究活動(課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導)

【家庭学習】

- ・ 調べたり文章を書いたりする宿題を与える

【研修】

- ・ 教職員が、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映

生徒の学習・生活習慣と学力との関係

次のような生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。
(教科に関する調査、生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・ 国語、数学に対する関心・意欲・態度が高い

【家庭学習・読書】

- ・ 学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・ 自分で計画立てて勉強をする
- ・ 学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・ 読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【学校生活】

- ・ 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある
- ・ 先生は、自分のよいところを認めてくれると思う

【基本的生活習慣】

- ・ 朝食を毎日食べる
- ・ 毎日、同じぐらいの時刻に寝る

【メディアとの関係】

- ・ 携帯電話やスマートフォンで通話・メール・インターネットをする時間が短い
- ・ テレビゲームをしている時間が短い

【家庭でのコミュニケーション等】

- ・ 家の人と学校での出来事について話をする
- ・ 家の人は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【社会に対する興味・関心】

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある
- ・ 新聞を読んでいる
- ・ テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る

【自尊意識・規範意識】

- ・ ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・ 学校のきまり・規則を守っている
- ・ 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

「えびなっ子しあわせプラン」ってなあに？

「えびなっ子しあわせプラン」は今年度から平成28年度までの3年間の海老名市の教育プランです。

ひとりひとりの海老名の子どもが、将来、しあわせに生きるために必要な「3つの力」を小・中学校の義務教育9年間で、学校や家庭、地域の教育をとおして、確実に身につけることを目的としています。

◇◆しあわせに生きるために必要な「3つの力」◆◇

学 力

大人になっても学習をつづけるために
基礎的な学力と学習意欲を身につけよう！



.....
教員の授業力を高めます。（授業改善の取組）



.....
小中一貫教育を進めます。（試行校での研究）



.....
市費の教員やボランティアを配置します。

集団力

人間関係を作り、集団の中で自分の役割を果たし、
自分を生かす力を身につけよう！



.....
人間関係作りの学習計画を作成します。



.....
いじめや不登校の問題に積極的に取り組みます。

健康安全力

自分の健康や安全に気をつけて、
いつまでも楽しく生活する力を身につけよう！



.....
体力・運動能力の向上をめざします。



.....
自分の命を守るための学習計画を作成します。

学校と家庭と地域がスクラムを組んで子どもを支えます



みなさまのご理解とご協力をよろしく申し上げます。

海老名市教育委員会



平成26年12月